西東京市市民協働推進センター
平成21（2009）年度第８回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成22年１月19日（火）　午後7時～９時10分
■開催会場：市民協働推進センター　サロンコーナー（イングビル１階）
■出席委員：有賀委員、熊田委員、坂口委員、橋本委員、原委員、宮﨑委員、山辺委員
<以上７名、五十音順>
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、三浦

１．報　告　事　項

１．業務報告について

○12月の月次報告について事務局が説明。

事務局：主催事業では子育てママのトークサロンの３回目と、ひまわりプロジェクトの最終となるヒマワリ油を使った調理を行った。NPO市民フェスティバル（３月７日、きらっと）の実行委員会が動き始め、12 月に２回開催した。１月、２月を含めると計７回程度開催することになる。実行委員会の委員はNPO法人子どもアミーゴ西東京、NPO法人西東京花の会、NPO法人たま市民葬コラボ、西東京芸術・文化市民協議会の４人。今のところフェスティバルへの参加を検討するという仮申し込みが 25団体からある。正式には２月１日号の市報で参加を呼びかけ、10日締め切り、13日説明会の段取り。参加団体には活動ぶりなどをＡ４判１枚に紹介してもらい、それを冊子にして会場で配布したい。
12 月に当センターに登録した市民活動団体は「西東京ガーデニングクラブ」「キッズタウンなちゅらるサロン」「AFQ友の会」の３団体だった。
相談件数は８件。NPO法人をつくりたいとの相談には設立要件や書類作成方法などを説明し、最近、東京都の認証を受けた団体に助言を求めてはどうかと伝えた。
委員長：ここまでで質問はあるか。
委　員：提案がある。NPO法人認証後に団体情報の掲載が早い内閣府のNPO法人ポータルサイトをチェックし、新しく認証された西東京の団体には当センターへの登録や利用を呼びかけるダイレクトメールを送ってはどうか。
委　員：登録団体を見ると、名称や活動目的に専門用語を使っていて、どんな考え方でどんな活動をしているのかわかりにくいものがある。あるいは、内部分裂して独立するなど複雑な事情を持つ団体が出てくるかもしれない。
委員長：団体登録については、その後サポート体制を組んだり、団体同士をつないだりするうえからも、ある程度団体の詳細情報を持っておく必要がある。センターはふだんから意識して対応してほしい。
事務局：提言の通りに実行していきたい。
委　員：発足当初の４、５月から見ると、相談件数が減少傾向にある。より広報活動に力を入れてほしい。

２．１月以降の実施事業について

事務局：「協働を考えるシンポジウム～市民と共につくる協働に向けて～」は１月27日午後２時から市役所保谷庁舎４階研修室で開催予定。東京ボランティア・市民活動センターアドバイザー安藤雄太氏が基調講演し、続くパネルディスカッションでは柏市役所、調布市市民活動支援センター、NPO 法人西東京NPO推進センター〔セプロス〕の３人のパネリストに安藤氏を交え、実践事例から協働を探る。
「トークサロン国際交流編」は１月28日午後７時から当センターのサロンコーナーで開催予定。NPO法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）の山辺真理子氏をゲストに招き、市内で３千人を超える外国人との共生について話し合う。
「大名刺交換会」は１月30日午後２時30分からコール田無イベントルームで開催予定。これまでのNPO・市民活動ネットワークと企業懇談会を繋げるかたちで、多様な人たちに出会ってもらう。参加者名簿を渡し、ソフトドリンクと菓子を出す。希望者でメーリングリストを作り、ネット上でも交流してもらいたいと考えている。

「会計講座中級編」は２月 17 日午後６時 15 分からイングビル３階会議室で開催予定。前回の基礎編と同じく馬場利明氏が講師。受講料は資料代として 500 円。
アドボカシー講座「市民のちからでまちは変わる」は２月 27 日午後２時からイングビル３階会議室で開催予定。父子家庭を支援するフレンチトースト基金のつかごしまなぶ氏とＮＰＯ法人西東京花の会の水井高志氏に講演してもらう。同基金の活動により、これまで母子家庭だけが対象だった児童扶養手当が、新政権下では父子家庭にも支給される可能性もあるためホットな話も聞けそうだ。
「トークサロン」は３月 18 日午後７時から当センターのサロンコーナーで開催予定。チラシはまだできていない。エフエム西東京の有賀達郎氏がゲスト。コミュニティＦＭの役割などが話題になるだろう。
「2010 ＮＰＯ市民フェスティバル」実行委員会については最近の資料をのちほどプリントして配布する。
委員長：質問、意見はあるか。
委　員：メーリングリストを作るということだが、講座などのイベントごとに作るとどんどん数が増え、センター側の管理が大変になる。参加者に自主的に運営してもらうとか、一定の期間を過ぎたらセンターが核となる「本体リスト」に入ってもらうといった形態を考えるとよい。本体に 100 人、200 人いると結構なパワーになる。
委　員：アドボカシー講座は二つの事例を並べるだけか、絡み合うのか。アドボカシーという言葉には政策提言だけでなく世論啓発などいろいろな意味がある。進行の仕方が大事だ。
事務局：つかごし氏の話が１時間、水井氏が 20 分、そのあと質疑応答を考えている。
委　員：参加者に「アドボカシーとは何か」の解答を持ち帰ってもらえる工夫が必要。政策提言の意味だけだと、対政府とか政党相手となり、大きな団体だからできること、と受け止められかねない。初めての講座でもあり、一般概念としてしっかり押さえておくのが望ましい。
事務局：講師と相談する。
委　員：ボランティアという言葉も人によっては構えてしまう。垣根を低くすることは必要だ。
委　員：アドボカシー講座のチラシに書いてある内容ではラジオ放送で告知するのは難しい。もう少しかみ砕いた表現が欲しい。
委員長：講演する２人の話のつながりと、そもそもアドボカシーとは何かについて、事務局は再度プログラムを検討してほしい。
委　員：窓口対応等についてのリスクマネジメントをどのように考えるか。
委員長：リスクマネジメントにセンターがどう対応するかは、本年度内に運営委員会で話し合っておく方が良い。ルールを作り、それに従って対応するしかないだろう。市との連携も重要だ。
事務局：いろいろ試しながら様子を見ることも必要かと思う。
委　員：どうしたら対処できるか、法律家など専門家に聞いてみるのはどうか。
委員長：リスクマネジメントをどう考えるかを今後議題として取り上げ、ルール作りを含め継続審議とする。

○事務局がＮＰＯ市民フェスティバルの資料を配布し説明。

事務局：名称は「2010 ＮＰＯ市民フェスティバル」、サブタイトルは「こんな市民活動があったのか！西東京」とした。３月７日午前 10 時から午後４時まで、きらっとの多目的ホールと会議室を通して使う。100 人くらい収容できる。内容は①来訪者と対話できるよう参加団体の個別ブースを設ける②団体の説明やＰＲのためのパネル展示を行う③メーンステージで団体が発表する時間を設ける④子ども向け、高齢者向けのコーナーなどを設け、多くの集客を図ることができるかどうかを話し合っている最中。現在 25 団体から「参加を検討する」との連絡をもらっている。終了後は実費で交流会を行いたい。
委員長：今の説明で提案や質問はあるか。
委　員：ブースの並べ方はどうする。エコ分野だけをまとめるといった方法もあるが。客の流れをどう作るのか。
事務局：ブースはバラバラでよいと思うが、２月 13 日の説明会でも考えたい。各団体がどこにあるかわかる配置図は作りたい。
委　員：物品の販売はしないのか。
事務局：制約があり、できない。
委　員：交流会はどこで行うのか。

事務局：市役所田無庁舎１階の食堂を予定している。
委　員：ステージは発表者が見えるように少し段差を高くする方がよいのでは。
事務局：社会福祉協議会にある台を用意できる。
委員長：開催当日の応援スタッフとして大学生に協力してほしいと事務局から要請されている。適切な人数を後日知らせてほしい。
事務局：実行委員会と相談して伝える。
委員長：１回目のフェスティバルだけに、楽しげな雰囲気を作ることで 1 人でも多くの市民に足を運んでほしい。500 人も来たら大成功。広報にも力を入れ、ぜひ成功させてほしい。
事務局：協働を考えるシンポジウムの補足をする。参加申し込みは一般８人、市職員１人。広報が遅れたことも一因だが、市の説明では職員を動員するには時期が悪いようだ。運営委員のみなさんに広報の協力をお願いしたい。
委　員：市議会の全会派にも呼びかけてはどうか。
事務局：検討する。
委員長：ぜひ行政職員に参加してもらいたいテーマだ。声かけで調整してもらえるようお願いしてほしい。

２．審　議　事　項

1．第7回運営委員会会議録について

○前回の第７回運営委員会会議録（未定稿）は、人名を原則削除するなど一部を修正したうえで、確定稿とすることとした。

３．協　議　事　項

１．ホームページについて

委員長：ホームページは、昨年 12 月の第７回運営委員会で、第８回運営委員会でも継続して検討することになっていた。その後の動きや予算について事務局から説明してほしい。
事務局：今日、市から話があり、予算を調整しているとのことだった。見積額を精査してほしいと言われた。今週中に再見積もりを提出する予定だ。
委員長：委員に作成してもらったホームページと人材バンクの感想を述べてほしい。私の印象では、ホームページはきれいなデザインで、人材バンクも見やすい。セキュリティーはどうなのか。
委　員：人材バンクの方は何重にもセキュリティーをかけられるようになっている。管理者がＯＫしなければアクセスさせないとか、あるドメインには招待状を送らないとか。
委員長：情報漏洩はありえないということか。
委　員：プロの攻撃は防ぎきれないかもしれないが、ふつうは招待状を送らないと入れない。
委　員：ざっと拝見した。ホームページも人材バンクも良くできていて特に問題ないと思う。
委員長：予算確保のめどはいつになりそうか。
事務局：２月に入ってからだと思う。
委員長：予算がいくら付くかを見極め、継続審議としたい。
委　員：何をどのように実施するかを文書で示してほしい。その際、優先順位を付けてほしい。
委　員：特に人材バンクはどういうものを求めているのか、どんな使い方が良いのかを考えてほしい。
事務局：地域に埋没している様々な人材情報を集約し、ＮＰＯなどの求めに応じて紹介できるようにして、地域活動の活性化と人材の活躍の場を広げたい。
委員長：人材バンクは、こういうものを考えていると提示されると吟味しやすい。
事務局：作成業者には文字で表現するのではなく、現物を見てもらい、こういう機能を入れてもらえればという形で依頼している。
委員長：業者の計画書でもよい。事務局がどういうホームページを作ろうと考えているのか、知識レベルの違いもあり、いまひとつわからない委員もいると思う。スケッチのようなもので構わないから、できるだけ早い段階で教えてもらえるとありがたい。そうすれば必要な機能や管理システムへと考えを進められる。

事務局：見積もりをお願いしている業者に聞いてみる。
委　員：ホームページと人材バンクは違う。ホームページはサイトマップを出してもらえるとそれでわかると思う。目的が決まっているので予算がはっきりしてからどう作るかを考えても良い。一方、人材バンクは、外部の人に利用させるデータベースではなく、外部から依頼がきたらデータベースからデータを引き出して人材を紹介するというマッチングのツールとして持つもののはずだ。その辺で、委員の間に齟齬（そご）をきたしているのではないか。
委　員：ＳＮＳ（ソーシャルネットワークシステム）はＮＰＯでそれぞれ作り、自己増殖していけば良い。人材バンクはインターネット経由で使う場合と独立するコンピューターの中で使うかを整理して示してほしい。
委員長：提示のときは専門用語をわかりやすく表現してほしい。特に人材バンクの方はこんな思想、考え方で使うのだということを、動かす前に共有する必要がある。引き続き次回も協議する。

４．そ　の　他

１．次回運営委員会日程について

事務局：次回は２月 23 日（火）19 時から、このサロンコーナーで開催したい。
委員長：できる限りここで継続的に行いたい。

以上をもって散会した。